昭和医科大学学士会後援セミナー

形成外科医として歩んだ頭蓋顔面外科から下肢救済、そしてロボット

上村　哲司　先生
純真学園大学保健医療学部医療工学科・特任教授

主催：昭和医科大学医学部形成外科学講座
2026 年 9 月 12 日　16：30～17：30，昭和医科大学上條記念館赤松

私は 1987 年 3 月に久留米大学医学部を卒業し、東京都渋谷区の日本赤十字社医療センターで外科系レジデントとしてのキャリアをスタートしました。外科研修を選んだのは、新しい環境で自分を試したいという強い気持ちからでした。学生時代は水泳部に所属し、心身を鍛える過程で自己の限界を超える力を学びました。この経験が私を新たな挑戦へと駆り立て、形成外科への興味を抱くきっかけとなったと考えています。

日本赤十字社医療センターでの 2 年間の研修は、全国から集まった優秀な研修医と共に過ごす貴重な時間でした。先輩医師たちの指導の下で、外科系の知識と技術を広げることができました。研修後、形成外科専門医の道を選び、昭和大学形成外科で働き始めました。昭和大学形成外科の名前を知りえた最初は、医学生 6 年の夏、福井での西医体の帰りに、東京女子医大の心研に見学に行った際（その時点では、卒業後の進路を決めていなかった）夜中の ICU には奴隷のようなレジデント心臓外科医が、働いていました。日中、私が手術見学を行った患者さんの受け持ちレジデント（男性）のそばに、深夜に伺った際の会話です。

生意気な学生＜女子医大なのに、男性医師ばかりですね？＞
レジデント Dr.＜この ICU には、男性しかいないし、他の大学出身だけだよ。＞
生意気な学生＜先生は、どこの大学出身なのですか？＞
レジデント Dr＜昭和大学だよ。母校には入らずにここにきたのは、開心術が多いから＞
生意気な学生＜昭和大学って、なにが有名何ですか？＞
レジデント Dr＜形成外科だよ。日本一の規模だよ！！＞

と、女子医大の心臓外科に入局したてのレジデントが自慢したのです！！その会話が、それからの選択には、大きなきっかけとなりました。皆様も同じ様に、昭和医科大学形成外科を選び、鬼塚一門になったのだと思います。

31 歳で、鬼塚先生のお許しのもと、オーストラリア・アデードの Craniofacial Unit に留

学しました。そこでは、Rare Craniofacial 疾患の治療に関する先進的な手術やマイクロサージャリーの技法を学びました。この経験は私の医師としての基盤を築く上で重要なものでした。帰国後、聖マリア病院での 6 年間を経て、2000 年に佐賀大学へ移籍し、特に頭頸部再建外科の分野で手術技術の向上に尽力し、アカデミアとして足の研究に没頭しました。26 年間にわたり、佐賀大学形成外科を率いる中で、診療、研究、教育の根底にあったのは「未知なるもの」への興味と好奇心です。

今回、昭和医科大学同門会での特別講演は、夢の様なことです。その胸の高まりを、後輩の方々への進路のお役に立てられればこれ以上ない喜びです。**"May the Force be with you!"** （フォースと共にあらんことを！）